

歯周病を治療すると 糖尿病もよくなる!

歯周病は、網膜症、腎症、神経障害、心筋梗塞、脳梗塞に次いで、
糖尿病の第6番目の合併症といわれ、糖尿病が歯周病を引き起こすことは、よく知られていました。
さらに、最近では、歯周病を改善すると、糖尿病の状態もよくなるという画期的なデータも発表されています。

歯周病が糖尿病を引き起こしたり、悪化させることも!?

糖尿病の人は、免疫力が低下して、歯ぐきの炎症がおこりやすくなるため、
糖尿病が歯周病をもたらし、悪化させるといわれています。さらに、歯周病
がひどくなると、炎症によって出てくる物質TNF- α (炎症性サイトカイン・
生理活性物質: 下記参照) が、インスリンの血糖値をコントロールする働き
を妨げて、糖尿病の状態を悪くするといわれています。



歯周病が糖尿病を引き起こすメカニズム

歯周病による慢性的な炎症が糖尿病を悪化させるという考え方が発表されています (Brt.Med.J.)。



歯茎の炎症によって
TNF- α が出てくる

歯周病がひどくなり、炎症
が続くと、TNF- α が増え、
血液中に流れ込み、CRP値
が上昇する

血液中にTNF- α が増えすぎ
ると、インスリンの働きが
妨げられる

高血糖に

糖尿病

TNF- α

炎症性サイトカインの一つで、もともと腫瘍を壊死させる働きがあるサイトカインとして発見された。TNF- α が増えすぎると、インスリンの働きを妨げるといわれている。

炎症性サイトカイン

サイトカインとは、細胞から出てくるたんぱくで、それに対する受容体をもつ細胞に働きかけ、細胞を増やしたり、機能させたりする。炎症によって出てくるサイトカインを炎症性サイトカインという。

CRP値

炎症パラメータ (炎症の強さと長さを判断する指標)。CRP値の上昇は、肝臓の働きを弱め、糖代謝にも悪影響を及ぼす。

インスリン

すい臓で分泌されるホルモン。血糖をコントロールする。